

中国語教育学会会報

第 64 号(通巻 89 号) 2023 年 1 月 31 日発行

〒161-8539

東京都新宿区中落合 4-31-1

目白大学外国語学部中国語学科

氷野善寛研究室内

中国語教育学会

Website <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

目次

1. 第 21 回全国大会発表募集	1
2. 2022 年度第 2 回理事会報告	2
2.1. 開催日時・方式・出席者	2
2.2. 報告事項	2
2.3. 審議事項	8
3. 事務局からのお知らせとお願い	10
3.1. 会員動向及び会費納入状況	10
3.2. 会費納入のお願い	10
3.3. 退会および除籍について	10
3.4. 登録情報の変更について	11

1. 第 21 回全国大会発表募集

中国語教育学会第 21 回全国大会は、2023 年 6 月 3 日（土）、4 日（日）に東海大学湘南キャンパスで開催されます（開催方式が対面方式あるいはオンライン方式のいずれになるかは、現時点では未定です）。大会概要は下記の Web サイトをご覧ください。

<http://www.jacle.org/annual/>

第 21 回全国大会の発表申し込み期間は、2023 年 2 月 1 日（水）から 2 月 20 日（月）23:00（日本時間）です。発表申し込み前に必ず下記の学会 Web サイトにて最新の発表応募規定をご確認ください。

<http://www.jacle.org/application/>

発表申し込みは、2023 年 1 月 30 日（月）の時点で 2022 年度までの会費を納入済みの中国語教育学会会員に限ります。会費をまだお納めでない方は早めにご入金ください。なお、本学会の年度は 4 月に始まり、翌年 3 月に終わります。2022 年度は、2022 年 4 月 1 日（金）から 2023 年 3 月 31 日（金）までです。

Web 版会員名簿（会員情報管理システム）を通じて、会員ご自身で会費納入状況を確認することができます。

<https://a-youme.jp/jacle/member2/>

2. 2022 年度第 2 回理事会報告

2.1. 開催日時・方式・出席者

日 時：2022 年 12 月 4 日（日）13:30-17:00

方 式：Zoom を使用した Web 会議

出席者（敬称略）：

氷野善寛、加藤晴子、清原文代、丸尾誠、植村麻紀子、佐々木勲人、鈴木慶夏、陳淑梅、
西香織、西村英希、長谷川賢、平井和之、藤井達也、紅粉芳恵、三宅登之、渡邊ゆきこ
相原里美（『中国語教育』21 号（2022 年度）編集委員会委員長）

伊藤大輔（デジタルリソース委員会委員長）

藤井久美子（第 20 回全国大会準備委員会委員長）

森山美紀子（第 21 回全国大会準備委員会委員長）

上野振宇、張雯茜、中田聡美（幹事）

欠席者（敬称略）：

阿部慎太郎

2.2. 報告事項

2.2.1. 『中国語教育』第 21 号査読結果について

『中国語教育』第 21 号査読結果について、全部で 13 本の投稿を受理したこと、および依頼原稿 3 本、論文（数未定）、実践報告（数未定）が掲載予定であることが報告された。

（2022 年度第 2 回編集委員会は、2022 年 12 月 3 日（土）13:00～15:10 に Zoom によるリモート形式で開催された）

2.2.2. 第 20 回全国大会（2022 年度）開催報告（会計）

第 20 回全国大会の会計収支について、以下の報告がなされた。

収 入

大会開催費	¥400,000
書店・出版社出展料（非会員 2 社）	¥4,000
開催校補助費	¥29,570
	計 ¥433,570

支 出

Zoom 契約料（プロ契約 ¥2,200×1, 大規模オプション契約 ¥7,370×1）	¥9,570
大会案内発送費（あゆみコーポレーション、印刷費・郵送費・発送業務）	¥79,225
交通費	¥1,000
事前打ち合わせ費	¥2,400

謝金（2名分、源泉徴収費込み）	¥40,000
備品購入費（切手、印鑑ケースなど）	¥2,159
郵送費（大会備品郵送代）	¥1,433
振込手数料（大会案内発送費・郵送費ほか振込分）	¥1,070
	計 ¥136,857
	残金（事務局に返金） ¥296,713

2.2.3. 第21回全国大会（2023年度）準備委員会準備状況報告

第21回全国大会準備委員会について、以下の報告がなされた。

第21回全国大会準備委員（五十音順、敬称略）

安藤好恵、石井宏明、勝川裕子、劔重依子、竹中佐英子、趙秀敏、張立波、中田聡美（事務局幹事）
平山邦彦、丸尾誠、森山美紀子（委員長）、李偉

1.開催時期と開催方式、会場について

①開催日時について

日時：2023年6月3日（土）、4日（日）

②開催方式について

開催方式が対面方式あるいはオンライン方式のいずれになるかは、現時点では未定。

③開催会場について

対面方式の場合：東海大学湘南キャンパス（〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1）

オンライン方式の場合：Zoom会議

2.プログラム（案）

【1日目（6月3日（土））】

基調講演

基調講演1：郭春貴（広島修道大学・名誉教授）講演タイトル「日本の大学汉语教育何去何从？」

基調講演2：古川裕（大阪大学・教授）講演タイトル「未定」

シンポジウム

登壇者：鈴木慶夏（神奈川大学）、西香織（明治学院大学）

【2日目（6月4日（日））】

対面方式の場合：

分科会発表：発表時間20分、質疑応答10分。午前・午後ともに2会場（教室）にて開催予定。

オンライン方式の場合：

分科会発表：Zoomにて、ブレイクアウトルームを利用し開催。

ポスターセッション：oVice などの利用による開催を検討中。

3.今後のスケジュール（案）

2/ 1（水）～20（月）	発表申込受付期間
3/10（水）	発表採択者の決定
4/20（木）	大会プログラムの発送
4/22（土）	予稿集原稿締め切り
4/24（月）～	予稿集編集
4/24（月）～5/1（月）	事前申込期間（参加申込の後のキャンセル（振込手数料を除いた参加費の返金）は5月12日受付終了日までなら可）
5/15（月）～21（日）	司会担当者へ担当分の予稿集原稿をメールで送付
5/27（土）～(6/11（日）)	予稿集のウェブ掲載
6/ 3（土）～ 4（日）	大会当日

4. 学会託児について

対面開催時の学会託児利用については、各自で託児所を手配して預け、後日領収書を提出してもらう。学会が定める補助金額の範囲内で、託児料金の半額までを学会が補助する。学会が補助する上限額は、平塚市・秦野市の託児所の時間費用を参考とし、一日当たり 3,000 円とする。なお、学会託児に関する補助は学会員のみとする。（託児に関する補助は平塚市・秦野市周辺でも居住地周辺でも可。但し、補助は学会開催の2日間に限る。）また、オンライン開催時の補助については未定である。

5.その他

（1）発表の種類と応募方法

発表形態

対面方式の場合、分科会発表のみ。

オンライン方式の場合、1) 分科会発表、2) ポスター発表（oVice などの利用を検討中）

応募は大会準備委員会が指定する期間に、「申込表」と「発表要旨」（1,000 字程度）を提出する。

（2）発表応募時期

理事会終了後、ウェブページ、会報等で広報を開始し、2023 年 2 月 1 日（水）から 2 月 20 日（月）23:00（日本時間）までの期間に申し込みをメールで受け付ける。

（3）大会参加費

開催方式により異なる。

対面方式の場合：

大会参加費：会員 3,000 円 / 非会員 3,500 円 / 当日 3,500 円

出 店 料：会員団体 3,000 円 / 非会員団体 5,000 円

※ 1 日目のみ講演者、シンポ登壇者、理事、準備委員、運営スタッフに弁当の支給あり。一般参加

者への弁当の販売は両日 ともになし。

※ 対面方式での当日受付については未定。

オンライン方式：

大会参加費：無料。参加は事前申込のみとする。

出 店 料：会員団体 無料 / 非会員団体 2,000 円、出店はオンラインで行う。

※ 2022 年度のように oVice によるオンライン懇親会を検討中。(参加費は無料)

(4) 予稿集について

「デジタル版」のみを作成。発表予定者には「執筆要領」に従い、データの提出を求める。

「デジタル版」は、大会開催のおよそ 1 週間前から終了後 1 週間の間、学会ウェブページに掲載。デジタル化に際して、発表申込時に「申込書」に「電子化してウェブで公開することに同意する」という旨の一文を入れ、事前に同意をとる。

(5) キャンセルについて

事前申込をした人が参加のキャンセルを求めた場合、(振込手数料を除いた) 参加費の返金は、5 月 12 日受付終了日までなら可。

(6) 同一あるいは類似メンバーが複数の発表をする場合

同一あるいは類似メンバーが複数の発表をする場合、それぞれの発表内容が異なれば問題ないが、同じ内容であれば認めないこととし、募集要項に「同一内容の発表を分割して発表することは原則として認めない」の文言を入れる。

(7) 発表時の使用言語

発表の申し込みの際に発表時の使用言語の書き込み欄を作る。申し込んだ使用言語以外は認めない。

2.2.4. 第 22 回全国大会 (2024 年度) について

日時：未定 (2024 年 5 月～7 月ごろ)

場所：大阪大学箕面キャンパス (〒562-8678 大阪府箕面市船場東 3-5-10)

大会準備委員会：古川裕 (委員長)、中田聡美、他の委員は人選中

2.2.5. 研究会開催報告

今年度の研究会について、以下の報告がなされた。

2022 年度第 1 回研究会 (西日本・東日本 合同主催)

日 時：2022 年 8 月 27 日 (土) 13:30～17:00

開催方法：Zoom オンライン

当日の流れ (発表 30 分+質疑応答 10 分= 1 人 40 分)

13:30～13:35 諸注意

13:35～14:15 周 云 (北九州市立大学・院) “X+前後” の認知的考察—第二言語教育の視点より

14:15～14:20 休憩

14：20～15：00	許 挺傑（大分県立芸術文化短期大学）初修中国語の発音指導におけるブレンド型授業の実践報告—2種類のブレンド型授業の比較を中心に—
15：00～15：10	休憩
15：10～16：30	太田 匡亮（大阪大学・院、HSK 日本実施委員会国内認定試験監督官、漢考国際 B 級認証監考官）HSK に関する勉強会 HSK3.0 改革について今分かること
16：30～17：00	ブレイクアウトルームで懇親会

2022 年度第 2 回研究会（東日本・西日本 合同主催）

日 時：2022 年 12 月 11 日（日）12:55～16:45

開催方法：Zoom オンライン

当日の流れ（発表 30 分+質疑応答 10 分=1 人 40 分）

12：55～13：00	諸注意
13：00～13：40	康 鳳麗（鈴鹿医療科学大学）、森脇 健夫（武庫川女子大学）「学習者オートノミーを育てる「ふりかえり」の実践的研究Ⅱ」
13：40～13：45	5分休憩
13：45～14：25	林 旭巧（千葉大学・非）「コーパスから見る「吃饭了」と「吃了饭」の相違点」
14：25～14：35	10分休憩
14：35～15：15	樂 大維（拓殖大学・非）「日本臺灣華語成人班開課状況之調査報告—以横濱中華學院、慈濟日本分會、大阪中華學校、京都華僑總會為例—」
15：15～15：20	5分休憩
15：20～16：00	赤池 晴香（日中学院・非）「「おうち中国語」実施家庭における教材の使用状況とそのニーズ」
16：00～16：05	5分休憩
16：05～16：45	姚 瑶（芸術文化観光専門職大学）「中国にルーツを持つ子どもの母語・継承語教育～演劇的活動を通じて親子の協働学習に着目する～」

2022 年度第 3 回研究会（東日本・西日本 合同主催）

日 時：2023 年 2 月 25 日（土）又は 26 日（日）

開催方法：対面 or Zoom（検討中）

2.2.6. デジタルリソース委員会報告

デジタルリソース委員会の活動について、以下の報告がなされた。

1. 学会ウェブサイトの更新について

デジタルリソース委員会では、定期的に Web サイトの更新作業を実施しており、2022 年 6 月 4 日に

開催された前回の理事会以降、以下の点について更新作業を行っている。

「投稿規程」…投稿規程を更新。投稿用データ（投稿票およびテンプレートファイル）を新バージョンに置き換え。

「研究会・講演会」…2022年度第2回研究会に関する情報を掲載。

「全国大会」…第21回全国大会（2023年度）に関する情報を掲載。

2. 外部団体等からの掲載依頼

事務局を通じて、外部団体のイベント告知及び大学等公募情報の掲載依頼があり、いずれも学会のWebサイトに掲載することに問題のない内容であるため、デジタルリソース委員長が採否を決定、委員会で掲載した。

- ・イベント：母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会 2022年度研究大会（オンライン）へのご参加お誘い
 - ・イベント：2022年度 第8回 城西大学中国語スピーチコンテスト
 - ・イベント：大阪産業大学孔子学院中国語教員養成講座（9月開催分と11月開催分の2回）
 - ・イベント：日・中・韓三言語連携による多言語絵本読み聞かせプロジェクトの成果と課題
 - ・イベント：大阪産業大学孔子学院中国文化講演会
 - ・公募情報：立命館大学（7/1～8/19）
 - ・公募情報：海上保安大学校（7/8～8/19）
 - ・公募情報：学校法人角川ドワンゴ学園 N/S 高等学校（7/14～7/25）
 - ・公募情報：早稲田大学（10/25～11/25）
- （ ）内は掲載期間

【参考】 イベント情報等の掲載フロー

○主催行事等，学会が主体であるような告知

各担当者 → デジタルリソース委員会

○会員からの関連する他団体等の情報，公募情報

会員 → 事務局 → デジタルリソース委員会（採否の決定は委員長）

○非会員・他団体等からの直接の掲載依頼

非会員の個人や団体等 → 事務局 → デジタルリソース委員会 → 理事会（持ち回り）で可否審議 → （可の場合）デジタルリソース委員会で掲載，（否の場合）デジタルリソース委員会から回答

3. メーリングリストへのメンバーの登録と削除、アドレスの変更

メーリングリストの自動化プログラムによって、現在はメーリングリストへの登録、削除およびアドレスの変更は自動的に行っている。メーリングリストにこれらの変更が生じた場合には、デジタルリソース委員会のメールアドレスに通知が届くようになっている。

2.2.7. 会員動向および会費納入状況（会費未納による除籍者報告）

会員動向および会費納入状況について報告がなされた。内訳については 3.1 を参照のこと。

2.3. 審議事項

2.3.1. 『中国語教育』第 22 号（2023 年度）編集委員選出について

〈2 年目〉

石井友美（岡山大学）【委員長】

関光世（京都産業大学）

王安（法政大学）（中国語母語話者）

渡邊ゆきこ（沖縄大学）【理事枠】

〈1 年目〉

山下一夫（慶應義塾大学）

藤井久美子（宮崎大学）

李偉（久留米大学）（中国語母語話者）

陳淑梅（東京工科大学）【理事枠】

2.3.2. 査読後の投稿原稿の種別変更について

「査読後の投稿原稿の種別変更」について、年度によって対応が変化することは好ましくなく、投稿者の種別判断も重要な要素ととらえ、投稿時の工夫で改善を促していくことが承認された。

第 21 号の投稿原稿のうち、執筆者は「論文」で投稿したが、査読者が「実践報告」であれば掲載可と判定する事案が 1 件あった。現行の投稿規程・執筆要項に種別変更に関する規定がないため、投稿原稿の種別変更を認めるかどうか、また認めるとすれば投稿規程に以下の文言を追加することについて審議した。審議の結果、いったん投稿された現行の種別の変更は認められないということになり、否決された。

2.3.3. 学会誌の電子化について

ワーキンググループの設置について、デジタルリソース委員長・編集委員長・他学会の経験者をオブザーバーと加えた時限的ワーキンググループ設置、会長によるメンバー選定が承認された。

2.3.4. 理事選挙の電子化について

「オンライン選挙システム」について、WEB 会員名簿のデモサイト完成後に次回の理事会で確定することが承認された。このシステムでは開票中は管理人を含め一切投票状況を知ることはできず、開票結果についてはそれぞれの会員に対する得票数のみを CSV データでダウンロードし確認することができる仕様である。

2.3.5. 中国語教育ワークショップ・交流会の開催について

今年度以降、会員向けの中国語教育ワークショップ及び交流会を実施する予定である。実施するにあたって、会長による時限的ワーキンググループの設置の一任とワーキンググループのメンバーについては自薦他薦どちらも受け付けることが承認された。なお、中国語教育ワークショップを講演形式で実施する場合の講師役には会員、非会員問わず謝金を支払う方向で検討すること年、その額については「2.3.9. 謝金について」で審議した。

2.3.6. 学会の情報公開や中国語教育の実施状況調査について

学会の情報の公開や、中国語教育の実施状況の調査について、今後実施の可否について検討を進めていくよう継続審議となった。

2.3.7. 理事の多選について

直近2回の理事選挙で、理事候補に当選しながらも辞退される先生がおられ、少なからず「会長、理事の選出に関する内規」の4. で定められている理事の数に影響を与えている。

会長、理事の選出に関する内規
3 選挙開票後に開催される理事会において、得票数10位までを得た会員を次期理事候補として選出し、就任を依頼する（選出時に理事でない会員が含まれる場合は、議決権を有さないものとして当該理事会への出席を依頼する）。また、得票結果に基づいて次期会長候補を選出し、就任を依頼する。
4. 就任を承諾した次期会長候補は、得票数によって選出された次期理事数を上回らない範囲で、個人会員の中から別途理事候補を選出し、就任を依頼することができる。

現状を踏まえつつ以下の2つの案が議論されたが継続審議となった。

案1：連続2期（4年）、あるいは通算5期（10年）ごとに理事を務めた場合、1期ないしは2期、選挙実施年度の〇月〇日以前に、本人の申し出により被選挙名簿から外れる権利を有することができる。

案2：繰り上げ当選については、10人に達するまで任用し、同票の場合①会員歴②年齢を判断材料とする。

2.3.8. 会員名簿のオンライン化に関する検討

2年に1度印刷、配布している紙版の会員名簿については今後オンライン化を進める方向で継続審議となり、オンライン版移行による公開範囲の調整を修正の有無を会員に確認することが承認された。

2.3.9. 学会から特定の個人や団体に対する推薦について

個人及び団体から学会に対して何らかの推薦の希望がある場合は、要件に応じて依頼ごとにその都度審議することが承認された。

2.3.9. 謝金について

教育ワークショップや全国大会等で講演を依頼する場合は、謝金の支払いの必要性があると判断し、

改めて謝金の支払い基準について検討した。

3. 事務局からのお知らせとお願い

3.1. 会員動向及び会費納入状況

(以下、敬称略)

(1) 会員数 (2022年11月29日現在) : 計 555 名

(通常会員 517 名、名誉会員 38 名 / 個人会員 534 名、団体会員 21 名)

(2) 新入会員 (2022年6月1日～2022年11月29日) : 計 19 名

于佳 (九州産業大学・非)、王軒 (東北大学)、藤原優美 (広島市立大学)、鄭月超 (中国紅河大学)、王棋 (関西学院大学)、桂雯 (東北大学)、國本延愛 (北京師範大学・院)、瀬戸口勲 (東京国際大学)、孟達来 (島根県立大学)、王培 (早稲田大学・院)、林旭巧 (千葉大学・非)、張月珍 (日本薬科大学・非)、思勤 (目白大学・院)、酒艶悦 (北海道大学・院)、劉礫岩 (情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所・研究員)、丁小娜 (なし)、橋本貴子 (公立小松大学)、李曉倩 (奈良女子大学・院)、小澤正人 (成城大学)

(3) 退会届け提出者 (2022年6月1日～2022年11月29日現在) : 4 名

(4) 除籍者 : 計 18 名 (以下敬称略)

宮坂健介 (早稲田中学・高等学校)、大西智之 (帝塚山大学)、余維 (関西外国語大学)、呂昭明 (国立政治大学)、丁伊勇 (中央大学・非)、李偉 (松山大学)、王慧雋 (早稲田大学・非)、張弘悦 (新潟大学・院)、刘温雯 (関西外国語大学・院)、馬瑜瑤 (大阪大学・院)、李怡寧 (大連理工大学)、孫曉丹 (株式会社アート知育中国語・代表取締役)、張鳴浩 (早稲田大学高等学院・非)、陳夢夏 (一橋大学・非)、欧陽丹 (中国暨南大学)、楊蕊寧 (京都大学・院)、李偉 (大阪大学・院)、帶谷朋子 (宮崎公立大学・非)

(5) 会費納入状況 (2022年11月29日現在) : 2,369,000 円

3.2. 会費納入のお願い

会費未納の方は、お早めに納入くださるようお願い申し上げます。会費納入状況は会員自身でWEB版会員名簿 (会員情報管理システム) にて確認することができます。

<https://a-youme.jp/jacle/member2/>

4月に郵送した払込取扱票を紛失された場合は、郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して、下記の郵便振替口座に送金してください (その場合には、通信欄に氏名および会員番号を、会員番号がわからなければ、氏名に加えて学会に登録している住所を必ずご記入ください)。

[口座記号-口座番号] 00110-1-191152

[加入者名] 中国語教育学会

3.3. 退会および除籍について

退会を希望される方は、当該年度までの会費をすべて納入した上で、学会サイトの「Web版会員名簿・変更手続き」にログインして退会手続きを取っていただきますようお願いいたします。なお、会

則第5条に基づき除籍になった会員は氏名が会報に掲載されますのでご注意ください(会報は学会Webサイトで公開)。退会届が受理された場合、退会者の氏名は掲載いたしません。

3.4. 登録情報の変更について

学会登録情報(住所・所属・メールアドレス等)に変更がある場合には、会員自身が本学会サイトの「WEB版会員名簿・変更手続き」にログインして、ご自身で変更していただきますようお願いいたします。

WEB版会員名簿(会員情報管理システム)の運用については、あゆみコーポレーションに委託しております。WEB版会員名簿に関するお問い合わせは下記のあゆみコーポレーションまでお願いします。

〒550-0001

大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A

あゆみコーポレーション内 中国語教育学会事務局事務代行

E-Mail : support@jacle.org

TEL. 06-6441-5260 (代) FAX. 06-6441-2055 (代)

あゆみコーポレーションは複数の学会の事務局代行を行っており、電話番号、ファックスとも他学会と共通で使用しているため、ご連絡の際には「中国語教育学会」についての問い合わせであるということをお伝えください。